

令和5年度第1回茨城県薬剤師確保対策協議会 結果

- 1 日時：令和5年9月4日（月）午後6時～7時40分
- 2 開催場所：県庁11階1105会議室及びWebexによるオンライン会議
- 3 結果：
 - (1) 会長の選出
 - (2) 議事
 - ①茨城県の薬剤師確保の現状等について
 - ②病院の現状等について

【以下、議事に係る主な意見】

(修学制度等)

- ・ 本県に薬学部がないことが病院薬剤師不足の要因ではないか。
- ・ 薬学部設置は難しいと思うので、医師と同様に、修学制度や地域枠の設置による薬剤師確保を図ってはどうか。
- ・ 地域枠を確保しても、その学生が県内に戻って来られる環境がないと効果は出ないと思う。
- ・ 病院勤務に興味を持っていても、奨学金返済のため、初任給の高いドラッグストアや調剤薬局を就職先に選ぶ学生が多いのが実態である。
- ・ 金銭面の支援として奨学金返済支援は是非行ってほしい。

(病院の特色や業務内容に関する情報発信等)

- ・ 学生からは「病院の特色が分からない」、「教育システムが明確でない」という声がある。
- ・ 病院薬剤師の魅力や実態、病院の特色を学生に伝える機会が少ないのではないか。
- ・ 就職説明会やインターンシップ、職業体験の実施等、病院薬剤師を広く知ってもらう機会を設けることは、ある程度有効だと思う。
- ・ 高校生の一日看護体験を実施すると、その中に薬剤師希望者もいる。
- ・ 地元に戻りたい学生を確保するため、実務実習の受け入れ病院の確保も必要
- ・ 実務実習受け入れ病院側の対応の良し悪しも、就職先に選ばれるポイント

(待遇等)

- ・ 病院薬剤師の仕事が変化し、業務の幅が広がったことも不足の一因と思う。
- ・ 仕事は忙しく給料は安いのでは、人が集まらないのは当然と思う。
- ・ 地域によっては、人数不足で多忙なため、病院実習に来た学生にも就職を避けられる悪循環が起きている。
- ・ 親は、子供には安定した職場で働いてほしいと思っている。
- ・ 病院間での出向、調剤薬局との人材交流など、病院薬剤師の業務の円滑化が図れないか。病院によっては実際に研修名目で薬局薬剤師を受け入れている。